

(別添 2)

No.	1
策定年月	令和 3 年 5 月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 坂井市産地 (作成主体:坂井市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

坂井市は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約7割(64%)を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要のある品種の生産を推進するとともに、実需者の求める品質と安定収量を確保するための栽培技術の導入を進めていく。

現在、坂井市においては、坂井市水田収益力強化ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・大麦については、本地域で生産している品種ファイバースノウは、全量(4260トン)が加工用として、主にA社、B社に販売しており、一部県内の製粉企業に販売されているが、実需からの要望を生産量が満たしておらず増産を図る必要がある。

・大豆については、生産の8割を占める品種「里のほほえみ」は、関西を中心に主に全国の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、作柄の不安定さにより安定供給が達成できていない。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦・大豆については横ばいで推移しており、単収は長期的に低下傾向となっている。単収低下の原因として、連作による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、改善が必要となっている。さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、作業適期の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、スマート農業の導入や作付の団地化等の推進が必要だが、団地化率は下がっており、改善が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦										
大麦	ファイバースノウ	(1,162) 1,162	(1,073) 1,073	(1,434) 1,434	(148) 147.9	(264) 264	(297) 297	(1,719) 1,719	(2,832) 2,832	(4,259) 4,259
	はねうまもち	(321) 321	(320) 320	(0) 0	(162) 162	(277) 277	(0) 0	(520) 520	(887) 887	(0) 0
作物計		(1,483) 1,483	(1,393) 1,393	(1,434) 1,434	(151) 151	(267) 267	(297) 297	(2,239) 2,239	(3,719) 3,719	(4,259) 4,259

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆		(682) 682	(637) 637	(580) 580	(121) 121	(121) 121	(91) 91	(828) 828	(768) 768	(528) 528
作物計		(682) 682	(637) 637	(580) 580	(121) 121	(121) 121	(91) 91	(828) 828	(768) 768	(528) 528

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦	ファイバースノー	1,074	92.4%	1,036	96.5%	1,297	90.4%	
	はねうまもち	318	99.1%	302	94.5%	0		
作物計		1,392	93.9%	1,339	96.1%	1,297	90.4%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆		619	90.7%	544	85.5%	489	84.4%	
作物計		619	90.7%	544	85.5%	489	84.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

県の団地基準面積値を使用している

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。